①若菜川の馬洗い場（長崎外国語大所蔵）

写真に見る115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

若菜川周辺の風景

□32□

新築移転した茂木郵便局

写真①は、県道の茂木街道と若菜川が合流する山道から下った浅瀬（現茂木小学校前）である。ここは荷物運搬に使われた馬の休息場であった。写真師竹下佳治の息子佳行がモデルとして対岸に立つ。木橋の南川橋の奥には片町の集落が見える。

竹下父子は明治37、38（1904、05）年ごろ、外国人の観光コースとなった小浜に撮影旅行し、拡幅された茂木街道の田上峠から渓谷に下り、山道に出た後、若菜川口で写真②を撮影した。

茂木の最初の郵便取扱所は明治7（1874）年、庄屋屋敷で開設された。庄屋の小川亀治が郵便取扱役であった。明治12年の郡制施行と共に庄屋は村の戸長となり、明治19年に三等郵便局の「茂木郵便局」となった段階で、局長はなお戸長の森岡文守であった。明治21年から森崎兼次郎（明治22年から初代村長）に交代する。

②若菜橋たもとの茂木郵便局（右）と湊屋旅館（長崎外国語大所蔵）

橋のたもとに写る擬洋風の茂木郵便局（茂木644番戸、後の1580番地）が、対岸川口の庄屋屋敷から新築移転したのは明治36（1903）年8月8日のことである。玄関に置かれた木製の黒ポストが赤い丸ポストに替わるのは明治41年以降。局の前では馬が荷馬車を引き、若菜橋は土橋から鉄製欄干の近代橋に架けかわっている。郵便局は大正11（1922）年に大改築され、昭和28（1953）年にはモルタル造りに改装された。

対岸の船着き場に建つのは湊屋旅館である。小川トクと今村重英夫妻が明治32、33（1899、1900）年ごろ、荷物預かり所兼旅館として開業した。トクは郵便局横にあった江戸時代からの造り酒屋「湊屋」（後の田上養生園茂木出張診療所）の最後の当主小川源三郎の妹で、永見家に嫁いで実家に戻り、川原村庄屋の長男重英と再婚した。旅館は過当競争と陸路交通の発達のため、明治末から大正初めに廃業している。

今回の取材は、湊屋のご子孫で茂木の歴史に詳しいライターの前田紀子さまにご協力いただきました。

（長崎外国語大学長）

この企画の過去の記事、写真は長崎外国語大のホームページ（http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/recnas/newspaper/）で見ることができます。

長崎外国語大のホームページにアクセスできるQRコード

随時掲載します

長崎新聞 2022（令和4）年1月17日

※長崎新聞社の許諾を得て掲載しています。画像および文章の無断使用・複製・再配布を禁じます。